



スプレッドと中部電力、日本エスコンが合同会社設立に向けた出資者間協定を締結 世界最大となる日産 10 トンの自動化植物工場「テクノファーム袋井」の建設を計画

2021 年 5 月 25 日

株式会社スプレッド（本社：京都市下京区、代表取締役社長：稲田 信二、以下「スプレッド」）と中部電力株式会社（本社：名古屋市東区、代表取締役社長：林 欣吾、以下「中部電力」）と株式会社日本エスコン（東京本社：東京都港区、代表取締役社長：伊藤 貴俊、以下「日本エスコン」）は、2021 年 5 月 25 日に植物工場の建設・運営を行う「合同会社 TSUNAGU Community Farm（ツナグコミュニティファーム）」（以下「新会社」）の設立に向けた出資者間協定（以下「本協定」）を締結しました。

食の「安心・安全」に対する消費者ニーズの高まりや、少子高齢化による農業従事者の減少、異常気象の頻発による不安定な食糧供給といった社会課題の解決に向け、栽培環境の管理・制御により安定的に農作物を生産できる植物工場への期待が高まっています。

3 社は、本協定に基づき、2021 年 7 月を目途に新会社を設立し、植物工場の建設・運営に向けた取り組みを進めてまいります。

具体的には、2021 年 10 月より、静岡県袋井市において、世界最大規模となる 1 日 10 トンのレタスを生産できる完全人工光型の自動化植物工場「テクノファーム袋井」の建設を開始し、2024 年 1 月からの生産開始を目指します。

中部電力のエネルギー管理に関するノウハウ、日本エスコンの不動産開発力、スプレッドの栽培技術を融合し、植物工場の建設・運営を行うことで、効率的かつ安定的に、「安心・安全」なレタスの生産に取り組んでまいります。

3 社は、植物工場事業を通じて、食や農業分野の課題に対してソリューションを提供するとともに、クリーンエネルギーの積極的な利用や栽培過程における CO₂ の有効活用など、脱炭素化に向けた取り組みを進めていくことで、持続可能で暮らしやすい社会の実現と SDGs の達成に貢献してまいります。

スプレッドについて

スプレッドは、2006年の創業当時から持続可能な社会の実現を目指し、植物工場事業を推進。2018年に稼働を開始した大規模自動化植物工場「テクノファームけいはんな」（京都府木津川市）は、パートナー企業と共同で開発した次世代型農業生産システム『Techno Farm™』を導入し、稼働から2年弱で稼働率99%に到達しました。いつでもどこでも安定的な野菜生産が可能な『Techno Farm™』の技術をさらに高め、2030年に国内で日産100トン体制の構築を目指し、国内外での事業展開を進めています。

また、「サステナブルなベジタブル」をキャッチコピーに、自社の植物工場野菜ブランド『ベジタス』を全国約4,000店舗で展開。2008年から累計で7,000万食^(※1)を販売してきました。

このたび、中部電力、日本エスコンの両社と持続可能な農業への価値観を共有しつつ互いの強みを活かすことができると判断し、本協定を締結しました。



テクノファーム袋井の特徴

- ・ 世界最大規模となる日産10トンのレタスを生産
- ・ 栽培を自動化することで作業の効率化と標準化を実現
- ・ より精緻なコントロールが可能な環境制御技術
- ・ 栽培に使用する水のリサイクル技術
- ・ 独自開発の植物工場専用LED照明による消費電力の削減
- ・ 栽培管理システム「Techno Farm Cloud」を活用し業務を効率化
- ・ 天候に左右されない安定的な供給
- ・ 農薬を使用しない栽培

スプレッドはアグリテック分野の技術革新を通して、世界が抱える気候変動や食料安全保障の課題に対してソリューションを提供していき、持続可能な社会の実現とSDGsの達成に貢献していきます。

テクノファーム袋井 概要

建設地	静岡県袋井市（東名袋井IC付近）
工場タイプ	完全人工光型植物工場
敷地面積	約24,400㎡
生産品目	葉菜類（レタス）
生産能力	10トン/日 3,650トン/年
生産開始時期	2024年1月予定



中部電力



合同会社 TSUNAGU Community Farm 概要

設立年月日 : 2021年7月(予定)
所在地 : 愛知県名古屋市東区東新町1番地
業務執行社員 : 中部電力(代表社員)、日本エスコン、スプレッド
出資比率 : 中部電力51%、日本エスコン48%、スプレッド1%
事業内容 : 完全人工光型植物工場による農産物の生産、販売事業

中部電力株式会社 概要

代表取締役社長 : 林 欣吾
設立年月日 : 1951年5月1日
資本金 : 4,307億円(2019年度末時点)
所在地 : 愛知県名古屋市東区東新町1番地
事業内容 : 電気事業およびその附帯事業、ガス事業、コミュニティサポートインフラ事業など

株式会社日本エスコン 概要

代表取締役社長 : 伊藤 貴俊
設立年月日 : 1995年4月18日
資本金 : 62億8,400万円(2020年12月末時点)
所在地 : 東京都港区虎ノ門二丁目10番4号 オークラプレステージタワー20F
事業内容 : 不動産販売事業、不動産賃貸事業、不動産企画仲介コンサル事業

株式会社スプレッド 概要

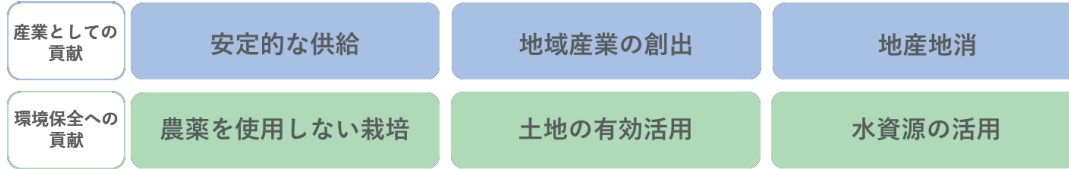
代表取締役社長 : 稲田 信二
設立年月日 : 2006年1月5日
資本金 : 8,740万円(2021年3月末時点)
所在地 : 京都府京都市下京区中堂寺粟田町90番地 KRP8号館
事業内容 : 植物工場事業の運営

別紙：スプレッド事業概要、3社共同ニュースリリース、植物工場事業の概要

【APPENDIX】

植物工場の社会的役割

気候に左右されることなく、どこでも誰でも安定的に生産ができ、かつ環境への負担が少ない持続可能でレジリエントな農業として期待されています。



日産 2 万 1 千株 世界に先駆けて黒字化を達成 亀岡プラント

2007 年より稼働。6 年の試行錯誤を経て、栽培に最適な環境制御技術の確立や、効率的なオペレーション構築によって、97%を超える高稼働率を実現し、大規模植物工場では困難と言われた黒字化を達成。熟練したスタッフによる大規模栽培技術の実験・検証の場としての機能も持ち、スプレッドの精度の高い生産を支えています。



日産 3 万株 革新技術で栽培安定化を実現 テクノファームけいはんな

2018 年より稼働。次世代型農業生産システム『Techno Farm™』を導入した初の工場。併設の研究開発施設での栽培技術や、IoT・AI 技術も開発。マザー工場として新規技術の実証と開発を行い、未来に向けてさらなる進化を続けています。2020 年には稼働率 99%に到達。

【生産性向上と環境負荷軽減を両立した革新技術】

- ・栽培工程の約 7 割を自動化
- ・水のリサイクル技術で 1 日約 16,000 リットルを節水
- ・高度な環境制御技術
- ・植物工場専用 LED 照明による省電力化
- ・IoT を活用した栽培管理システムによる業務効率化



次世代型農業生産システム Techno Farm™

スプレッドが亀岡プラントで培った 10 余年のノウハウを基に、各分野のパートナーと共同で開発しました。自動化栽培、水のリサイクル技術、環境制御技術、植物工場専用 LED 照明、IoT・AI 技術などを導入。未来の食料生産に必要な不可欠な技術として持続可能な農業を推進していきます。

URL : www.technofarm.com



累計 7,000 万食超を販売 ^(※1) 植物工場野菜ブランド ベジタス

「サステナブルなベジタブル」をコンセプトに、食べるだけで地球や人が健やかになる野菜を目指しています。ラインアップはフリルレタス、プリーツレタス、フリンジレタスの3種類。それぞれシャキシャキ、ふんわり、ふわシャキといった個性あふれる食感と、甘味と旨味が広がる味わいです。お子様も喜んで食べていただける緑黄色野菜 ^(※2) として支持されています。サラダはもちろん、サンドイッチ、さらにスープなどの加熱料理でも引き立つおいしさです。 URL：www.vege-tus.com

ベジタス



SDGs への貢献



スプレッドは、2030年のSDGsの達成に向けて、以下のように取り組んでいます。

目標 2 飢餓をゼロに：持続可能な食料生産の推進

目標 3 すべての人に健康と福祉を：徹底した衛生管理による食中毒リスクの軽減

目標 8 働きがいも経済成長も：自動化、DX化の推進による労働負荷の軽減

目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：ITを活用した効率的な栽培管理

目標 12 つくる責任 つかう責任：生産物の捨てる部分が少ないことによるフードロスの抑制

目標 13 気候変動に具体的な対策を：レジリエントな農業の推進

目標 15 緑の豊かさを守ろう：土地の有効活用、栽培期間中農薬不使用

目標 17 パートナースhipで目標を達成しよう：『Techno Farm™』のパートナーシップ展開

※1 スプレッドで生産し販売したレタスの実績

※2 ベジタスは緑黄色野菜の基準（β-カロテンの含量 600 μg/100g 以上）をクリア

【本リリースに関する問い合わせ】

アースサイドグループ 広報部

E-mail：info@earthside.com

TEL：050-3852-0561（直通） 075-316-6020（代表）

URL：www.spread.co.jp

電力研究会（名古屋）、エネルギー記者会（東京）京都経済記者クラブ（京都）で同時公表します。



ES CON JAPAN
IDEAL to REAL



Press Release

2021年5月25日
中部電力株式会社
株式会社日本エスコン
株式会社スプレッド

植物工場の建設・運営を行う「合同会社 TSUNAGU Community Farm」の設立 ～世界最大規模となる日産 10 トン植物工場「テクノファーム袋井」を建設します～

中部電力株式会社（代表取締役社長：林 欣吾、所在地：名古屋市東区、以下、「中部電力」）、株式会社日本エスコン（代表取締役社長：伊藤 貴俊、所在地：東京都港区、以下、「日本エスコン」）および株式会社スプレッド（代表取締役社長：稲田 信二、所在地：京都市下京区、以下、「スプレッド」）は、本日、植物工場の建設・運営を行う「合同会社TSUNAGU Community Farm」（以下、「新会社」）の設立に関する出資者間協定（以下、「本協定」）を締結しました。

食の「安心・安全」に対する消費者ニーズの高まりや、少子高齢化による農業従事者の減少、異常気象の頻発による不安定な食糧供給といった社会課題の解決に向け、栽培環境の管理・制御により安定的に農作物を生産できる植物工場への期待が高まっています。

3社は、本協定に基づき、2021年7月を目途に新会社を設立し、植物工場の建設・運営に向けた取り組みを進めてまいります。

具体的には、2021年10月より、静岡県袋井市において、世界最大規模となる1日10トンのレタスを生産できる完全人工光型の自動化植物工場「テクノファーム袋井」の建設を開始し、2024年1月からの生産開始を目指します。

中部電力のエネルギー管理に関するノウハウ、日本エスコンの不動産開発力、スプレッドの栽培技術を融合し、植物工場の建設・運営を行うことで、効率的かつ安定的に、「安心・安全」なレタスの生産に取り組んでまいります。

3社は、植物工場事業を通じて、食や農業分野の課題を解決するとともに、クリーンエネルギーの積極的な利用や栽培過程におけるCO₂の有効活用など、脱炭素化に向けた取り組みを進めていくことで、持続可能で暮らしやすい社会の実現とSDGsの達成に貢献してまいります。

【新会社の概要】

会社名	合同会社 TSUNAGU Community Farm
設立日	2021年7月（予定）
所在地	愛知県名古屋市東区東新町1番地
業務執行社員	中部電力（代表社員）、日本エスコン、スプレッド
出資比率	中部電力51%、日本エスコン48%、スプレッド1%
事業内容	完全人工光型植物工場による農産物の生産、販売事業

別紙：植物工場事業の概要

以上

<お問い合わせ先>

中部電力株式会社	総務・広報・地域共生本部	報道グループ	052-961-3582
株式会社日本エスコン	管理グループ	広報・IR担当	03-6230-9308
株式会社スプレッド	広報部		050-3852-0561

- 食の「安心・安全」に対するニーズの高まりや、少子高齢化による農業従事者の減少、異常気象の頻発による不安定な食糧供給といった社会課題の解決に向け、安定的に農作物を生産できる植物工場への期待が高まっている
- 当社のエネルギー管理に関するノウハウ、日本エスコンの不動産開発力、スプレッドの栽培技術を融合することで、効率的かつ安定的に、安心・安全なレタスを生産する
- 植物工場事業を通じて、食や農業分野の課題を解決するとともに、クリーンエネルギーの積極的な利用や栽培過程におけるCO2の有効活用など、脱炭素化に向けた取り組みを進めていくことで、持続可能で暮らしやすい社会の実現とSDGsの達成に貢献する

植物工場を通じて提供できる「安心・安全」の価値

消費者：栽培期間中農薬不使用、衛生的、高栄養化
事業者：安定供給
(定時・定量・定質・定価)
省力化、廃棄ロス削減



食・農分野の社会課題を解決

- ・ 農業従事者減少
- ・ 食料自給率低下
- ・ 食品ロス etc.

グループ総合力+最適パートナー



エネルギー管理

不動産開発

栽培技術



植物工場事業の概要

【工場の概要】

工場名	テクノファーム袋井
建設地	静岡県袋井市（東名袋井IC付近）
工場タイプ	完全人工光型植物工場
敷地面積	約24,400m ²
生産品目	葉菜類（レタス）
生産能力	10トン/日
生産開始時期	2024年1月予定

【工場完成イメージ（外観）】



【工場内部イメージ】※写真はスプレッドの「テクノファームけいはんな」

・育苗棚



・生育室

